

事例8 第6学年 内容項目：D よりよく生きる喜び

- ・写真を提示したり事前体験（石砕き）を想起させたりした導入
- ・個人の考えを可視化するツールを活用し、小集団、全体へと広げる話し合い
- ・道徳的価値について考えを深める役割演技
- ・自分の考えを整理したり、自分との関わりで捉えたりする書く活動

1 主題名 気高い心

2 **ねらい** 人間の中にある人のもつ強さや美しさなど、気高さについて考える学習を通して、人間のすばらしさや人間としての生きる喜びを感じようとする心情を育てる。

教材名 「青の洞門」（出典：「みんなの道徳6年」学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること。」に関するものである。人間の強さや気高さは、第1学年及び第2学年においては「美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと」、第3学年及び第4学年においては「美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。」に関連し、中学校の「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。」に発展していく。

人間は本来、よりよく生きようという存在であり、そのために人間性を高めようと努める素晴らしさがある。しかし、一方で誰もが誘惑に負けたり、楽で容易な方へと流れたりする弱さもある。人間は決して内在する弱さをそのままにしておく存在ではなく、弱さを羞恥として受け止め、それを乗り越え誇りを感じることを通して、生きることへの喜びを感じる。また、人間の行為の美しさに気付いたときに、人間は更に強く、気高い存在になり得る。

人間として生きる喜びとは、人からほめられたり、認められたりすることだけで生ずるものではなく、誇りや愛情、共によりよく生きていこうとする強さや気高さを理解することによって自分の弱さを乗り越えることにある。また、弱い自分を乗り越えるだけでなく、自分の良心に従って生きることであり、人間の素晴らしさを感じ取り、よりよく生きようとするものである。

指導に当たっては、人間の強さや気高さを理解させることで、誇りある生き方、夢や希望などの喜びのある生き方をしようとする心情を育てることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級では、学級活動などで自分の将来や人生を考えたり、自分の夢について話したりする場面を意図的に設けてきた。そのため、多くの児童が将来の夢をもち、毎月の目標を各自が立て、それを達成しようとしている児童が多い。しかし、自分の心の弱さから、行動や結果が伴わず、なかなか自分に自信をもてずにいる。

自分をより高めようと努める素晴らしさと、誰もが抱えている弱さは同時に内在していることを理解した上で、誇りある生き方に気付き、夢や希望をもって生きる喜びを感じられるようにしたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、過去に大きな罪を犯した了海が、償いのために自分の人生をかけて手作業でトンネルを掘り上げる感動的な話である。

了海は、ある時、鎖渡しから転落して命を落とす人が多いことを知る。そこで、了海は多くの命を救うためにも、岩をくり抜いて道を作ることを考える。洞窟を掘ろうと絶壁に挑む了海の決意と不屈の精神が、村人の心を動かし、協力を得られるまでになる。その後、了海に父を殺され、仇討ちをしようとする実之助が現れる。実之助は洞窟が完成するまで仇討ちを待ち、一緒に洞窟を掘るようになる。そして、洞窟が完成すると、最後には、了海と手を取り合って喜び合い、恩讐を越えて感激の涙にむせび合う。

この教材の活用にあたっては、実之助の心情を中心に、主に次の場面を話し合うことにする。

①長年探してきた了海を見つけた場面。

親の仇を取ろうと、強く思い続けてきた実之助に共感させる。

②了海に「お切りなされ」と言われた場面。



父の無念を晴らしたい気持ちと、人のために命をかけて仕事を成し遂げる人を切ることはできない気持ちの両面を考える。

③実之助が仇討ちをやめ、了海の手を握った場面。

憎しみなどの感情をも越えて、感激、涙する二人の誇りある生き方について考える。実之助の心を変化させたものはなんだったのか、また、二人の生き方から、誇りをもってよりよく生きようとする喜びについて考えさせたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導課程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 教材の時代背景を知る。</p> <p>・青の洞門の写真を見たり、実際に石を砕いたりしたことを思い出しましょう。</p>	<p>・すごい大きなトンネルだ。</p> <p>・これを人の手で掘ったとは思えない。</p> <p>・時間がかかっただろうし、大変だったと思う。</p>	<p>・大分県の青の洞門の写真を見せることで、教材への関心を高める。</p> <p>・事前に石を砕く経験をさせておくことで、その大変さを十分に感じ取らせておく。</p>
<div data-bbox="245 837 1182 927" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>写真を提示したり事前体験（石砕き）を想起させたりした導入</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="341 943 507 1218" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="528 943 871 1218" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="871 943 1294 1122" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>思っていたより、全然削れないよ。大変なんだなあ。</p> </div> </div> <div data-bbox="900 1137 1337 1211" style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>※石砕き体験は、休み時間を使い、安全面に十分留意して行った。</p> </div> <div data-bbox="300 1245 1401 1352" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>実際の写真と、事前の石を砕く体験の想起から、人の手だけで成し遂げることがどれだけ大変なことかを感じ取らせることで、教材の世界に入りやすくした。</p> </div>			
展開	<p>2 教材「青の洞門」を読み、実之助の気持ちを中心に話し合う。</p> <div data-bbox="245 1581 938 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>人間の強さとは何だろうか。</p> </div> <p>(1)長年探してきた了海を見つけたとき、実之助は何を思ったでしょう。</p> <p>(2)了海に「お切りなされ」と言われたとき、実之助は何を考えたでしょう。（中心発問）</p>	<p>・20年も探し続けて、ようやく見つけられた。</p> <p>・これでやっと殺された父の仇をとることができる。</p> <p>・憎しみが更に増してきた。</p> <p>・これでやり残すことはないだろう。</p> <p>・やっと仇を討てる。</p> <p>・仇討ちを忘れそうになったが、父の無念は晴らしたい。</p>	<p>・登場人物や条件・状況を確認する。</p> <p>・了海と実之助の関係や江戸時代のしきたり、当時の交通の様子、工具など、教材の内容に関わる時代背景を説明し、課題を提示することで児童に問題意識をもたせる。</p> <p>・父を殺された恨みから、実之助が仇を討つために、数十年にもわたって探し続けてきた思いに十分に共感させる。</p> <p>・実之助の心の揺れを、心情メーターを使って可視化し、立場を明確にした話し合いを通して、道徳的価値に対する考えを深める。</p>

- ・命をかけて人のために仕事を成し遂げた人を切ることはできない。
- ・了海はもう十分に罪を償った。
- ・洞窟が完成した喜びや驚き、感激などが、仇を討ちたいと思う憎しみを越えて、大きくなった。

・個々、ペア、グループ、全体と話し合いを広げることで多面的・多角的な考えに触れる。

☆実乃助に自己を投影し、憎しみからくる感情や罪を償ったことに対する思いなどを、多面的・多角的に話し合っている。

個人の考えを可視化するツールを活用し、小集団、全体へと広げる話し合い

T：了海に「お切りなされ」と言われたとき、実之助は何を考えただろう。

C：了海がずっと命をかけて仕事をしてきているのを見てきているので・・・仇を討つことをためらう気持ちがある。

T：ためらうのですか？親が殺されたのに？

C：でも・・・親を殺された悲しみや憎しみは、まだ消えていない。

T：そうですね。でも了解は頑張って償ったのではないですか？頑張ってきた了海を見たら、悲しみや苦しみは消えてなくなるのではないですか？

C：・・・どんなことをしても、消えるものではない。

C：でも償ったことは認めてあげてもよいのではないかと思います・・・。

C：了海がずっと命をかけて仕事をしてきているのを見てきているので・・・仇を討つことをためらう気持ちがある。

T：どうやら「仇を討とう」という気持ちと「仇を討つのはよそう」という気持ちの両方があるみたいですね。「仇を討つ」を赤、「仇を討たない」を白として、どちらの気持ちが強いか心情メーターで表してみましょう。



心情メーターで自分の考えを整理し、表現した。

【小集団での話し合い】

T：それでは、このときの実之助の思いについて、グループの人たちと更に話し合ってみましょう。

C：仕事を成し遂げた姿を間近で見てきたから、仇討ちをできないかな。

C：でも、父を殺されているし、このままだと、一家もつぶれてしまうかもしれない。これまでの憎しみは何年たっても忘れてない。

C：憎しみは消えていないけど、人の命を救おうとしてきた了海を殺しても気持ちは晴れない気がする。

C：父を殺された悲しみや苦しみを知っているからこそ、そんなに簡単に人を殺せない気持ちもある。



心情メーターを活用しながらグループで意見交換を行い、考えを深めた。また、友達のことを聞いた後、更に心情メーターを操作し、考えの変化やその理由を追った。

【全体での話し合い】

T：(心情グラフから) ○○さんは、仇を討たない気持ちが少し多いようだけど、みんなはどう思いますか。

C：実之助は、父を殺してしまったけど、了海は罪を償うために、多くの人々の命を助けたから…

C：了海はたくさんの人の命を救って、もう罪を償ったと思う。その姿をそばで見てきたし。

T：「了海は罪を償った」と言ってくれたけれど、他の人はどう思いますか。

C：こんなに頑張ったんだから、償ったと思う。

C：わたしは、償いきれてはいないと思う。過去にしてしまったことは消えないと思うから。

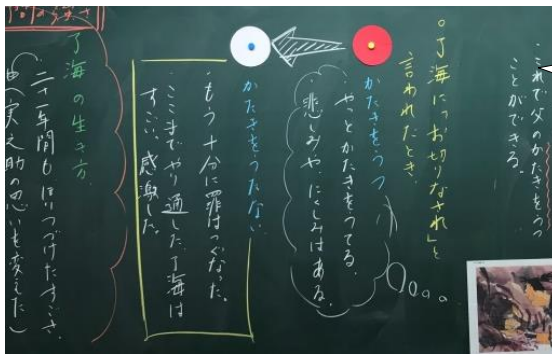
T：それでも、○○さんが(心情メーターから) 仇討ちをしない気持ちが強いのはどうしてかな？

C：罪は償いきれてはいないのかもしれないし、悲しみや苦しい気持ちは変わらないかもしれないけど、自分の憎しみを晴らしたい気持ちを越えたものがあつたから。

T：自分の憎しみを晴らしたい気持ちを越えたものって？詳しく教えてください。



学級全体で友達と心情メーターを見比べ、比較する。意図的な指名からそれぞれの考えを引き出した。



板書に考えを整理することで、心の葛藤を確認し、より思考を深めるための手掛かりとした。

(3) 仇討ちをやめ、了海の手を握った時の実之助はどのような思いだったでしょう。

- ・人のために自分の命をかけて、決心したことを成し遂げようとしてきた了海の思いや姿を思い出している。
- ・了海の成し遂げた仕事に驚き、感激している。
- ・普通では成し遂げられないことを、成し遂げた了海を尊敬している。

・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れ、人の心を動かすものについて考えをもてるようにする。

道徳的価値について考えを深める役割演技



役割演技(教師：了海、児童：実之助)を行うことで、そのときの感動を味わい、主人公の心を動かしたものを感じられるようにした。

役割演技をしている児童に感想を聞き、更に役割演技を見ている児童にも感想を聞くことを通して、学級全体で道徳的価値についての考えを深めた。

4 二人の生き方について考える。
 ・あなたは実之助のことをどう思いますか。また了海の生き方についても自分の考えを書きましよう。

・穴を掘り続けた了海はすごい。了海のしたことが、実之助の心を大きく変えた。
 ・憎しみの心を乗り越えて、了海のことを認め、許した実之助も強い心をもった人だと思った。なかなか真似できないけど、強い力をもらった。
 ・人間には強い憎しみの気持ちも変えさせるくらいの強さやよりよく生きようとする力があることが分かった。二人に感動した。人のすごさについて考えられた。

・自分の考えをノートにじっくりと書く時間を取り、自己を見つめ、自己の生き方を考えることにつながられるようにする。
 ☆了海や実之助の行為を通して、人の行為の中にある気高さや崇高さについて自分事として捉えノートに書いている。

自分の考えを整理したり、自分との関わりで捉えたりする書く活動

○あなたは実之助のことをどう思いますか。また了海の生き方についても考え、自分の考えを書きましよう。

了海は自分の弱さを乗り越えよう、何年も努力してほり続けたとかすごいと思いました。実之助はとてもかわいそうだと思います。それなのに親を殺した人といふにはほろこいというはずがないことだと思いました。

○二人の生き方から学んだものはなんですか。また、今の自分の生き方に生かせることはどんなことですか。

もしどんなに非難がきつてもあきらめずそれを乗り越えていって協力し土壁をいしにわらわあそび人になれたらいいと思いました。

学習のふり返り (○ ◎ △)

自分の考えをもつことができた。	自分の考えと自分の考えを比べながら聞けた。	自分の考えを友達に伝えることができた。
○	◎	△



書く活動を通して、登場人物二人の生き方を考えるとともに、更に自分の生き方についても見つめ、考えを深めた。

終末 5 教師の説話を聞く。

・これからの生活の中で、誇りある生き方をしようとする意識を高める。

本時の板書

青の洞門
 了海は自分の弱さを乗り越えよう、何年も努力してほり続けたとかすごいと思いました。実之助はとてもかわいそうだと思います。それなのに親を殺した人といふにはほろこいというはずがないことだと思いました。

了海は、お切りなヤレ！と言われたとき、かたきまつつ、やとかたきまつつ、飛びかや、にしはあな、かたきまつつ、な。

もつ十分に非難がきつてもあきらめずそれを乗り越えていって協力し土壁をいしにわらわあそび人になれたらいいと思いました。

了海の生き方。
 ニ二年間、ほりつづけたこと、
 実之助の生き方。
 実之助の心も変えたこと、
 (実之助の心も変えたこと、
 強い心をこえて、了海を許し認めたいの強さ、)

人間の強さって何だろう？

了海
 実之助

5 他の教育活動との関連

キャリア教育と関連付け、自分の夢を考えたり、自己の生き方等について、見つめたりする。社会科では、伊能忠敬や杉田玄白などの偉人についての学習を通して、その偉業や生き方を学ぶ。総合的な学習の時間では、地域の人が行っている仕事を体験させてもらうことで、身近な人の生き方を、自分との関わりで考えられるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・主人公に自分を投影しながら考え、自分の考えと他の人の考えを比較しながら話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・人間の強さや気高さについて自分との関わりでとらえ、誇りある生き方や喜びのある生き方について考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

主人公（実之助）の心情を、心情メーターを使って表し、立場を明確にして自分の考えを発表させた。心情を可視化したことにより、お互いの立場が分かりやすくなり、話し合いが活発になった。自分の立場を始めに示し、ペア、グループと小グループで話し合いを行い、その後もう一度心情メーターを操作し、友達の考えを聞いてどう変化したのか、変化しなかったのかを理由を付けて発表することで、児童は自分の考えをより深めることができた。

話し合いを深めていく中で、了海に父を殺された憎しみや苦しみから「仇討ちをしたい」、「しなければ報われない」と考える児童と、了海が命をかけて仕事を成し遂げた姿を目の当たりにした驚きや感動から「仇討ちはもうするべきではない」、「了海は十分償った」と考える児童とに分かれ、葛藤する実之助に十分に共感することができた。授業の前半部分で、実之助の気持ちに十分寄り添って考えることで、実之助の気持ちは簡単には変わるものではないことも分かっているからこそ、乗り越えるものの大きさを感じている様子であった。

特に、グループの話し合いでは、自分の考えと同じ考えを聞くことでその気持ちを更に強めたり、自分とは異なる考えを聞くことで迷ったりしながら、心情メーターを変化させていた。また、自分では気付かなかった様々な考えや感情について話し合うことによって、道徳的価値の大切さはもちろんのこと、価値を実現することの困難さや価値の捉え方の多様さをも理解したり、自分の経験や感じ方、考え方と照らし合わせたりしながら、最終的には自己の生き方について考えを深めることができた。

②自分との関わりで考える学習について

後半の書く活動では、ワークシートを使うことでじっくりと登場人物それぞれの生き方について考えることができた。自己を見つめ、自分の人生について見つめることで、自分たちにも内在している人間の強さを感じ取らせ、誇りある生き方、喜びのある生き方につなげることができた。

(2) 視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆実乃助に自己を投影し、憎しみからくる感情や罪を償ったことに対する思いなどを、多面的・多角的に話し合っている。

葛藤場面の話し合いでは、了海と実之助それぞれの立場や、人間理解と価値理解との葛藤から、どうすべきなのかについて多面的・多角的な話し合いが行われた。その際、心情メーターを使ったことで他者との比較が容易になり、友達とどこが同じでどこが違うのか、またその理由は何なのかを話し合い、自分の考えの幅を広げたり深めたりしている姿が見られた。また、メーターの割合だけにこだわるのではなく、割合が小さくてもその重さを言葉で表現し、伝える様子があった。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆了海や実之助の行為を通して、人の行為の中にある気高さや崇高さについて自分事として捉えノートに書いている。

登場人物二人の生き方から考えたことや学んだことなどを整理していた。了海と実之助が同じ感動を味わったことを理解し、人には優しさがあるからこそ本当の強さをもてることや、弱さがあるからこそそれを乗り越えようと努力することが大切なのだという気づきをノートに記す児童がいた。

命をかけて人のために仕事を成し遂げようとする事への驚きの気持ちだけではなく、実之助の心を動かすものが人間にはあること、憎しみの心を越えて、よりよく生きようとする心の強さや誇れる生き方について感じ取っていた。また、物語の中だけの感動で終わるのではなく、自分たちの中にも、その強さをもち合わせていることにも触れ、自分事として捉え、生活につなげようとする児童が数多く見られた。

(3) その他

事前に、石を砕く体験をしておくことで、その大変さや成し遂げたことへの驚きをより一層感じ取り、導入での本時の内容理解や考えを深めるための手助けとなった。話を聞き、簡単に想像したり、理解したりすることが難しい内容では、体験的な活動を取り入れることが有効であることが再確認できた。

第3発問では、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れ、児童と教師で役割演技を行った。役割演技をした児童やそれを見ている児童が、成し遂げた感動や心が動かされた場面を実感を伴って共有することができた。

児童の実態を考えると児童が捉えるのが難しい内容項目であったが、本時はどのようなことを考えるのかという課題を提示することで、内容項目に対する児童の意識が焦点化され、問題意識を高めることにつながった。授業後半での自己の生き方を見つめる場面でも生かすことができた。